

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103725		
法人名	有限会社 ジャスト・サポート		
事業所名	グループホーム やすらぎの郷たつた		
所在地	熊本市北区弓削1丁目8-47		
自己評価作成日	令和3年1月30日	評価結果市町村受理日	令和3年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和3年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの方針、目的としての理念を職員みんなで共有し利用者様一人ひとりのレベルに合わせ、個性を理解したケアを心掛けて支援しています。また季節を味わい感じて頂ける様に季節の花や切り絵を飾ったり、旬の材料を使用した食事を提供しています。医療面では、2週間に1回の往診と3ヶ月に一度の定期検査を受けながら健康管理を行って貰っており、家族の安心感につながっています。看取りにも対応しており、終末期に近づく主治医より詳しい説明をしていただき、家族の同意により、看取りケアを行っています。毎年、地域行事への参加や外出活動等を行っていましたが、コロナウイルス感染予防のため、今年度は地域行事も中止となり当施設の外出行事も中止させて頂きました。運営推進会議の中止や面会のお断り等で家族との接点が減りましたのでネット環境の充実を図り、来年度よりテレビ電話による面会を開始する予定です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員と入居者の長年の関わりが温かいホームの雰囲気を作っており、リビングからは懐かしい童謡に明るい歌声がもれ、職員が入居者の話に耳を傾けながら何気ない日常を過ごしている。この正月はコロナ禍の中を楽しんでもらおうと門松づくりに挑戦し、事前に準備した紙芝居で門松の由来を知ってもらう等職員の工夫が見られる。今回の外部評価の家族アンケートについても、添え分を添付し依頼したことで全家族からの返信に繋がっており、職員の姿勢が評価される。小学生の下校を応援する“みまもり隊”は、児童の一日を労いお疲れ様の意味を込め、“こんにちは！”“おかえりなさい！”の声掛けに、児童、入居者の双方に嬉しい取組として、今後も継続されることが期待される。殆どの家族が最終の支援までを希望されており、職員は今日の日を大切にしながら、入居者と向き合うように心している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年理念を確認に事業所のわかりやすい場所に掲示している。毎日申し送りの際確認して、ケアに生かす様に取り組んでいます。	職員で理念の見直しをしているが、「明るく笑顔のたえないやすらぎの郷」他、3項目をこれまで通りケアの拠り所として継続していくこととしている。コロナ感染症により地域との交流はなかったものの、離職のない職場環境が笑顔の絶えないホーム運営を展開している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とのつながりがあるように地域行事や施設行事等への参加ができるように取り組んでいましたが、今年度はコロナ流行の為、地域行事の中止もあり外部への参加ができなかった。	ホームは自治会に加入しており、会費の支払いや回覧板のやり取り、コロナ化で地域行事がなかったことから、自治会代表者と連絡を取り合い、関係継続に努めながら、地域の一員として活動している。現在、ホームの改装工事に伴い事前に地域への挨拶を行っている。ホームの取組に小学生の下校に合わせ、挨拶やエールを送るなど、地域の“みまもり隊”として入居者がいきいきと参加されていることは高く評価される。	“みまもり隊”の活動は入居者・児童双方にとって嬉しい取組と思われる。入居者がホームに居ながらにしてできる地域交流であり、今後も継続していかれることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域行事にて当施設の内容について発信していたり、いつでも見学の受け入れができる様にしていますが、今年度はコロナ流行にて制限している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、コロナウイルス流行に伴い運営推進会議を中止していたため、細かい意見交換ができていません。当施設より2ヶ月に1回連絡し近況報告や情報をもらい、交流を図っています。話し合った書類は文書化して各委員会の方々に郵送しています。	今年度はコロナ禍により会議を通常開催から書類審議として実施している。書面には2か月ごとの行事紹介や事故報告、事前に参加者メンバーから寄せられた意見などが載せられ、ホームだより“やすらぎ通信”を同封して入居者の近況を発信している。	報告書の中に、身体拘束適正化委員会に代わり、ホームでの勉強会や事例検討などの取組も同時に発信することで、更に透明性のある運営に繋がるとと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	集団指導の開催も中止され、コロナウイルス感染防止対策に関しての相談等を行いながら関係を築いています。	この一年は行政との感染症に対するやり取りが主だったようである。また、感染症対策には資料を基にホームでの勉強会の開催や、同業者からの情報が支援に反映されている。何かあれば行政に相談したり、指導を受けながら良好な関係継続に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する会議を行いながら、事例検討を行いながら、身体拘束を行わない方針で取り組んでいる。	身体拘束や虐待について勉強会の機会を持っている。ミーティングの中で資料の読み合わせをしたり、他所であった事例をホームに置き換え、職員が自身の立場だったらどうするかなど、対岸の火事と捉えずわが身のこととして検討している。スピーチロックなど言葉使いについて気になる点があれば、その都度注意し合うようにしている。	ホームの身体拘束に対する姿勢を玄関口などに「0」宣言として掲げる事で、来訪者への啓発にも繋がると思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について学ぶ機会を作り虐待の事例を挙げて話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての必要性や仕組みについて話し合っている。現在、入居されている方にも後見人制度使用されている方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日頃より連絡を取りご家族の要望や不安に思うことを聞き取れる様に対応しています。また入居時や退去時にもその際に時間をかけて説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者とのコミュニケーションをとりながら要望をくみ取るようにしている。また、ご家族にも、面会時や定期的に連絡を取りながらご家族の要望を聞くように努めています。	現在面会を控えている現状であり、職員はやすらぎ通信や電話で、入居者の近況を伝えながら家族の意見を収集するようにしている。家族からは入居者の体調や認知症の進行を心配する声などが寄せられており、職員は丁寧に対応しているもののまだまだ情報の発信不足と感じている。入居者の「外に出たい」との言葉に、駐車場の桜を見に行くなど現在できる事に対応している。	今後ホーム独自で家族アンケートを実施することも検討いただき、さらに運営に反映されることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時に職員からの意見をくみ取り内容によっては代表会議時に報告しています。	職員会議で出された意見や提案をホーム運営に反映し、空気清浄機の購入に繋がっている。管理者は職員との個人面談の機会を改めて設けてはいないが、勤務中に声を掛けたりお茶の時間を持つなど働きやすい職場環境を作っている。また、希望休や有休にはできる限り応じるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況の把握に努め、やりがいや向上心を持てるような取り組みを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状況を前向きに本人が行いたいことや受けたい研修がある時はできる限り対応や参加ができる体制を取っていましたが、コロナ流行にて殆どできていない。(今回タブレット購入しネット上での研修の環境が整った)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの流行によりブロック会等の交流が無くなりましたが、ZOOMでの研修や交流等の導入ができ外部との交流が図れてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃より本人との時間を作り不安に思っていることを聞き取ると共に情報収集をさせて頂き、本人が安心して過ごせる様なケアを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居依頼があった場合、初めてのコンタクト時、入居する際に十分な情報を収集しながら、入居者との関係作りに活かし、また入居されてからも定期的に家族と連絡を取りながら情報収集に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に情報収集を十分に行い利用者の状況に合わせてその時に必要とされるサービスや情報をアドバイスしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で食事後の食器拭きや一緒に掃除を行ったりしながら暮らしを共にする関係の構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に連絡を取ったり、ご家族訪問時にも本人の状況報告を行いながら適宜話し合いながら、支える関係を構築しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の行事等で親類の集まり等がある際は、親族との時間を作ってもらう様に協力をお願いを行っています。また、昔の思い出に残るエピソードを話題にしてコミュニケーションを図ったりしています。	職員は入居者の生まれ育った出身地の話に耳を傾け、馴染みの歌をうたいながら個々に寄り添うようにしている。理美容支援にこれまでは外部から来所してもらっていたが、現在は、スタッフによる散髪などで対応している。家族が手作りしたマスクを着けて受診に出かける方や、必要によっては家族同行の受診を楽しみにされるなど関係性が薄れないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	季節ごとの行事や1日2回のレクリエーションへの参加を促しながら個別の時間も大切にしていますが集団との係る時間も作っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族とは、定期的に連絡し近況報告を行ったり、連絡がある時は、相談に応じる様にしています、。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の入居される時の生活歴や日常の会話や行動の中より、本人の意向をくみ取りながらケアに繋げています。	職員は日頃から入居者の傍で話を聞き、ゆっくり会話しながら思いを引き出すようにしている。意思確認が難しい方にはこれまでの暮らしぶりや家族の意向を聞きながら、支援に反映するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際に以前の施設からの情報収集や家族からの情報収集を行っています。また入居されてからは、本人とのコミュニケーションの中からも把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンスを行うことで、日頃の一人ひとりの状況把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設での生活状況を踏まえ、職員内でカンファレンスを行いモニタリングをしケアプランに反映するように努めています。	職員はカンファレンスで入居者の現状を共有し、支援内容を評価しながらプラン作成に繋いでいる。若い男性入居者へは個別外出のプランや重度化や終末期支援のプランには病状変化の早期発見や不安なく穏やかに過ごしてもらおうなどをあげている。殆どの家族が最終の支援までを希望されており、職員はホームでの一日一日を大切に支援していくことが重要としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人経過記録に実践内容や気づき等を記入し、見直しや評価をしながらケアプランの見直しに繋がっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望を取り入れながら様々なニーズに対応できる様に支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加をしたり、自治会長や民生委員を通して、見守り体制などの協力してもらい、地域にて安全に生活を送れる様に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族にかかりつけ医の希望がある時は希望の医療機関への受診の支援を行っています。また主治医との連携を図りながら状況により専門医への受診、診療が受けられる様に支援しています。	現在、系列法人医療機関による月2回の訪問診療や3か月ごとの受診の他、本人・家族の希望する機関に家族の受診同行を依頼しながらホームで対応している。歯科は必要に応じて協力医院へ連絡し、治療が行われている。また、専門医については主治医との連携を図りながら適切な医療支援ができるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師・介護職員より往診ナースと連携を図り、情報共有しながら適切な受診や看護が受けられる様に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療との協働に関しては、医療機関との連携との契約を結んでおり、緊急時には受け入れの体制協力をしてもらっている。また入院した際は、情報提供と定期的な連絡を取りながら、協力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医、看護師や管理者にて話し合い、家族希望を取り入れた方針を全体で共有している。その後もかかりつけ医と綿密な連絡を取り合い、今後の対応を常に話しあっています。また、終末期が近づくと再度主治医・家族・施設職員とも綿密な話し合いを行い看取りの希望がある場合は同意をもらい支援を行っています。	入居時にホームの方針を伝え、その時点での家族の意向を確認している。殆どの方がホームでの最終の支援を望まれているが、体調が低下されたら再度聞き取り方向性を決定している。この1年で主治医や訪問看護、職員の連携を図り、2名の看取りを支援した際は、感染症への対策を施しながら面会を支援している。また、お茶が好物だった方には、特に香りや味の良い物を準備するなど、細やかな最終の支援が行われている。支援後は本人を偲びながら振り返りの機会を持っている。	家族が遠方におられる場合などは、最終に立ち会うことが困難な場合もある。入居者と家族の関係性を支えるホームの役割は大きく、面会を控える現状にある今日安心して繋がる日頃の情報発信が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成して日々職員が確認できる場所に掲示しています。ミーティング時に定期的に確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火研修で学んだことは職員間で共有しています。避難訓練は、防火管理者を中心に、年2回実施し避難時の情報共有も行っています。今年度は、地震想定での訓練も行い運営推進会員の方々や家族にも訓練風景の写真入りのお便りを送り理解を得ています。	今年度は自主訓練で6月に地震を、11月に火災・地震を昼間想定で実施している。管理者は年に1度は、消防署の参加協力による訓練を切望している。地震が発生した場合は、立地の面からホーム内で待機が安心であると判断している。安全点検はリストに沿って月1回実施しており、食備蓄については、現在準備中である。	ホームの立地面からも引き続き、あらゆる災害を想定し、机上を含めた訓練への取組が期待される。また、準備中である食備蓄については、早急な実現が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した対応や言葉使いを心掛けている。またプライバシーに関するマニュアルをミーティング内で定期的に共有しながらケアを行っています。	プライバシーに関するマニュアルは定期的に見直しを行い、職員間で共有を図っている。呼称は基本的に苗字としているが、状況に応じて下の名前でも対応している。身だしなみの支援として馴染みの衣類や道具を持参してもらっており、不足の衣類や衣替えなども心掛け家族へ依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の状況を把握するように努め、状況に合わせて自己決定できるように、声掛けや誘導を行っています。意思を示せない方の場合、思いをくみ取る様に心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせて、出来る限り利用者本意に過ごせる様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所される際に馴染みのある衣類や道具を持参してもらい本人らしく過ごしてもらえる様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューも利用者の方々と会話の中で出てくる物を取り入れたり、定期的に見直しを行いながら楽しんでもらえるようにしています。また、一緒に下さりえや片付けをしながら食事の提供をしています。誕生会の際はバイキングにして本人が選択できるような工夫も行っていきます。	献立は職員が立てており、1階、2階でアレンジしながら調理している。食材(肉・魚・米)は市場や専門店直送の物を活用しており、刺身の提供も以前より回数は減っているが、イベント時に喜んでもらっている。また、年に3回程(花見など)配達弁当をとり、目先を変えた昼食を楽しんでいる。職員も同じものを摂ることで思いを共有しており、バランスの良い温かな食事は職員の力の源になっている。	職員自身が日々の昼食を楽しみにしていることも、入居者の食事への関心を高めているようである。職員による手作りの食事支援が継続されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状況に合わせて普通食、刻み食、ミキサー食等の対応を行ったり、嚥下の問題がある方には、トロミをつけて提供する様に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後に本人に合わせて口腔ケアを行っている。夜間、入れ歯使用の方々は、入れ歯を預かり洗浄剤使用を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握して本人にあった排泄ができるように声掛け誘導を行っています。	把握した排泄パターンを共有し、個々に応じた声掛け誘導に努めている。現在、リハビリパンツを使用される方が主であるが、布パンツに尿取りを併用、臥床中心になられオムツの方もおられる。また、夜間も自立の方の見守りやトイレ誘導、パット交換、本人、家族の希望によりポータブルトイレなど、個々に応じ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の生活状況を把握しながら、毎日の牛乳摂取や個別散歩やレクにて体を動かしながら予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望があれば、入浴日以外でもできる限りの対応を行っています。入浴拒否される方もいますので、入浴のタイミングを図って誘導したり、入浴剤使用や音楽を流しながら等、臨機応変に対応しています。	入浴日に限らず可能な限り要望に応じており、週3回を目標に支援している。身体状況からシャワー浴が中心の方や、清拭や足浴での対応も行っている。拒否がある場合には誘導方法を工夫したり、入浴中、Wi-Fiで唱歌を流すと喜ばれる方もおられるようである。また、「気持ちいいけどきついか〜！」と言われるなど、楽しみにもなっているが、年齢からも負担に感じる方がおられるのも現状のようである。	入浴は体力を要することから、今後も個々の状況に合わせて支援されることを期待したい。また、入浴剤の使用や菖蒲・柚子湯は、色や季節を楽しめるものであり、異食などの心配のない方においては、継続されるとよいと思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めておらず、利用者の状況に応じた対応を行っています。なかなか寝付かない方がいる場合は、水分補給やお菓子の提供をしたり、寄り添いスムーズに入床できる様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃より服薬ファイルし情報の共有に努めている。新しい内服が処方された際は、申し送りノートに記載して情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で家事活動や外回りの草むしり、散歩や買い物等、その人の生活歴を活かした役割やレクリエーションへの参加にて楽しんで過ごせる様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は駐車場まで散歩外出したりしています。以前は、買い物や個別の夕食の為に外出していましたが、今年度はコロナの影響で中止しています。	これまで実施していた外食支援や食材購入への同行など、現在は控えているが、駐車場への散歩や数人での合同レクリエーションを楽しんでいる。また男性入居者と職員のマンツーマンでの外食支援など、要望や年齢などを考慮した支援に努めている。リハビリ通院や3か月に1回の定期受診も、ドライブ外出に代わるものと捉え、これまで以上に車中の会話を楽しんだり、遠回りしての帰園など工夫している。	コロナ感染症の終息が見えない状況であり、引き続き外出に代わる取組や、外出気分を味わえるようなDVD、ビデオ視聴など職員の工夫に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に紛失しても良いかの了承のもと、本人の希望があれば小金のみの金銭管理を本人にさせていただいています。買い物の際に使える様に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は、自由に電話ができる様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるように切り絵の展示を行っている。また、季節の花をホールに置いたり音楽を流したりしている。定期的に窓を開けて喚起を行い感染防止に努めています。	玄関先やリビングなどに草花を飾ることで、入居者との会話の引き出しにも繋がっている。感染症への対策から今年度新たに空気清浄機をユニットに2台ずつ設置した他、換気や掃除の徹底に努め、家族からも清潔に管理されているという意見が出されている。職員の特技を活かした切り絵は継続して掲示され、ホーム内に季節感と和やかな空間を提供している。外出が出来ず、ホーム内の生活が中心になっているが、職員の明るい声が安心感を与えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを設置し、利用者同士の交流の場として使用されている。状況により廊下や事務所のスペースを使用しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、本人や家族と相談し居心地よく安心して過ごせる様に、使い慣れた物を持ってきてもらい個性ある居室の支援に努めています。	入居後も自宅に近い環境で過ごせるよう、これまで使用されていた物、馴染みやお気に入りの品など持ち込みを依頼している。現在、家族の面会を控えており、家族に代わって職員が衣類の管理を行っており、不足の物があればその都度伝えるようにしている。居室はゆとりがあり、大型のタンスなども持ち込まれている他、居室での時間が中心になられても、ホーム内の様子が聞こえるよう少し戸を開けておく時間など、家族の一員としてを共に過ごせるよう配慮している。	面会が出来ない家族にとって居室内の様子は気になる点の一つと思われる。今後とも居室で過ごされる様子など家族の安心に繋がる報告が期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにて段差は無く、居室やトイレ、浴室はの戸は横開きとなっている。また、自立を促せる様に手すりを要所に設置し、居室には名札をつけ分かりやすくしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103725		
法人名	有限会社 ジャスト・サポート		
事業所名	グループホーム やすらぎの郷たつだ		
所在地	熊本市北区弓削1丁目8-47		
自己評価作成日	令和3年1月30日	評価結果市町村受理日	令和3年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和3年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの基本理念を職員みんなで共有し利用者様一人ひとりの個性を大切に尊重し家庭的で安心してゆっくり過ごせる環境づくりに努めています。季節を感じてもらえる様に、年間行事にも力を入れ楽しく過ごして頂ける様にレクリエーションも工夫しています。医療面では、2週間に1回の往診と3ヶ月に一度の定期検査を受けながら健康管理を行って貰っており、家族の安心感につながっています。看取りにも対応しており、終末期に近づく主治医より詳しい説明をしていただき、家族の同意により、看取りケアを行っています。コロナウイルス感染予防のため、今年度は地域行事も中止となり当施設の外出行事も中止させて頂きました。運営推進会議の中止や面会のお断り等で家族との接点が減りましたのでネット環境の充実を図り、来年度よりテレビ電話による面会を開始する予定です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をわかりやすい場所に掲示して職員全員で復唱し実践に繋げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とのつながりがあるように地域行事や施設行事等への参加ができるように取り組んでいましたが、今年度はコロナ流行の為、地域行事の中止もあり外部への参加ができなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域行事にて当施設の内容について発信していたり、いつでも見学の受け入れができる様にしていますが、今年度はコロナ流行にて制限している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、コロナウイルス流行に伴い運営推進会議を中止していたため、細かい意見交換ができていません。当施設より2ヶ月に1回連絡し近況報告や情報をもらい、交流を図っています。話し合った書類は文書化して各委員会の方々に郵送しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	集団指導の開催も中止され、コロナウイルス感染防止対策に関しての相談等を行いながら関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について日頃の業務の中で話し合いながら確認をしながら高速のないケア実践に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の報道等があるごとに職員同士で確認や話し合いを行い虐待のないケアに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について必要時に説明や仕組みについてはないあっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に不安や疑問点など十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者より要望がある場合は、早急に対応できるように努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の状況はオーナーと細目に連絡を取りあって職員の意見を反映できる様に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングなどを行い内容により代表者まで報告を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状況を前向きに本人が行いたいことや受けたい研修がある時はできる限り対応や参加ができる体制を取っていましたが、コロナ流行にて殆どできていない。(今回タブレット購入しネット上での研修の環境が整った)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの流行によりブロック会等の交流が無くなりましたが、ZOOMでの研修や交流等の導入ができ外部との交流が図れてきている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃より本人との時間を作り不安に思っていることを聞き取ると共に情報収集をさせて頂き、本人が安心して過ごせる様なケアを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居依頼があった場合、初めてのコンタクト時、入居する際に十分な情報を収集しながら、入居者との関係作りに活かし、また入居されてからも定期的に家族と連絡を取りながら情報収集に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に必要とされるケアを情報共有しケアに繋げられる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭の雰囲気やできる限り感じて頂ける様に一緒に食事をしたり、家事手伝いやレク等環境に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細めに連絡を取り本人直接の面会は中止している為できる限り状況報告に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の行事等で親類の集まり等がある際は、親族との時間を作ってもらう様に協力をお願いを行っています。また、昔の思い出に残るエピソードを話題にしてコミュニケーションを図ったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	季節ごとの行事や1日2回のレクリエーションへの参加を促しながら個別の時間も大切にしていますが集団との係る時間も作っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族とは、定期的に連絡し近況報告を行ったり、連絡がある時は、相談に応じる様に行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の入居される時の生活歴や日常の会話や行動の中より、本人の意向をくみ取りながらケアに繋げています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際に以前の施設からの情報収集や家族からの情報収集を行っています。また入居されてからは、本人とのコミュニケーションの中からも把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンスを行うことで、日頃の一人ひとりの状況把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設での生活状況を踏まえ、職員内でカンファレンスを行いモニタリングをしケアプランに反映するように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人経過記録に実践内容や気づき等を記入し、見直しや評価をしながらケアプランの見直しに繋げています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望を取り入れながら様々なニーズに対応できる様に支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加をしたり、自治会長や民生委員を通して、見守り体制などの協力してもらい、地域にて安全に生活を送れる様に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族にかかりつけ医の希望がある時は希望の医療機関への受診の支援を行っています。また主治医との連携を図りながら状況により専門医への受診、診療が受けられる様に支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師・介護職員より往診ナースと連携を図り、情報共有しながら適切な受診や看護が受けられる様に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療との協働に関しては、医療機関との連携との契約を結んでおり、緊急時には受け入れの体制協力をしてもらっている。また入院した際は、情報提供と定期的な連絡を取りながら、協力を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医、看護師や管理者にて話し合い、家族希望を取り入れた方針を全体で共有している。その後もかかりつけ医と綿密な連絡を取り合い、今後の対応を常に話しあっています。また、終末期が近づくと再度主治医・家族・施設職員とも綿密な話し合いを行い看取りの希望がある場合は同意をもらい支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成して日々職員が確認できる場所に掲示しています。ミーティング時に定期的に確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火研修で学んだことは職員間で共有しています。避難訓練は、防火管理者を中心に、年2回実施し避難時の情報共有も行っています。今年度は、地震想定での訓練も行い運営推進会員の方々や家族にも訓練風景の写真入りのお便りを送り理解を得ています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格人格を尊重しながら十分な見守り、声掛けに配慮しながら支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の状況を把握するように努め、状況に合わせて自己決定できるように、声掛けや誘導を行っています。意思を示せない方は、思いをくみ取る様に心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせて、出来る限り利用者本意に過ごせる様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所される際に馴染みのある衣類や道具を持参してもらい個性を大切にし本人らしく過ごしてもらえる様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	肉・魚をバランスよくメニューにいれる様心掛けています。又、その他の旬な物や行事に合わせてメニューに入れ提供して季節感を味わってもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状況に合わせた水分補給や栄養バランス、個人に合わせ普通食、刻み食、ミキサー食等の食事形態や量を提供している。嚥下状態が困難な方にはトロミをつけて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後に本人に合わせて口腔ケアを行っている。夜間、入れ歯使用の方々は、入れ歯を預かり洗浄剤使用を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握して本人にあった排泄ができるように声掛け誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の生活状況を把握しながら、毎日の牛乳摂取や個別散歩やレクにて体を動かしながら予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望があれば、入浴日以外でもできる限りの対応を行っています。入浴拒否される方もいますので、入浴のタイミングを図って誘導したり、入浴剤使用や音楽を流しながら等、臨機応変に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めておらず、利用者の状況に応じた対応を行っています。なかなか寝付かない方がいる場合は、水分補給やお菓子の提供をしたり、寄り添いスムーズに入床できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃より服薬ファイルし情報の共有に努めている。新しい内服が処方された際は、申し送りノートに記載して情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で家事活動や外回りの草むしり、散歩や買い物等、その人の生活歴を活かした役割やレクリエーションへの参加にて楽しんで過ごせる様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は駐車場まで散歩外出したりしています。以前は、買い物や個別の夕食の為に外出していましたが、今年度はコロナの影響で中止しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に紛失しても良いかの了承のもと、本人の希望があれば小金のみの金銭管理を本人にさせていただいています。買い物の際に使える様に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は、自由に電話ができる様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の特技を生かし季節感を出し利用者と一緒に飾りつけを行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを設置し、利用者同士の交流の場として使用されている。状況により廊下や事務所のスペースを使用しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にて過ごされていた頃とできる限り変わらず居心地よく安心して過ごして頂く様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにて段差は無く、居室やトイレ、浴室はの戸は横開きとなっている。また、自立を促せる様に手すりを要所に設置し、居室には名札をつけ分かりやすくしています。		